

# 平成27年度 新潟市総合学習部 活動報告

部長 竹石 一博（新潟市立新潟小学校）

## 1 研究主題

主題 「子どもが自ら探究する総合的な学習の時間の創造」  
副題 ～子どもに確かな力を付けるための評価の在り方（2年次）～

## 2 研究の概要

研究主題は、『平成27・28年度新潟市の学校教育の重点』に示されている「付けたい力の明確化」を実現することと、『新潟市の授業づくり』に示されている「ねらいと評価の一体化」を総合的な学習の時間で具体化することを意図したものである。

総合的な学習の時間においては、これまでは、どのような力を付けるべきであるのかが不明確なまま学習活動が構成されたり、それを評価する計画が形式的なものに留まっていたりする傾向があった。そこで、昨年度は1年次の研究として、指導と評価の一体化の在り方を実践をもとにして検討してきた。そして、今年度は、昨年度の研究で得られたことを指導案と実践に反映させる方法について研究することとした。

## 3 研究の実際

○研究授業 第5学年「にいがた お米No.1」 授業者 教諭 中村康（葛塚小学校）

米を取り巻く現状について、稲作体験や教科の学習と関連付けながら調査し、地域に対して自分ができていることを考え、働き掛ける子どもの姿を目指す単元である。

子どもたちは、米の消費を上げるために、自分にできることはないかを考え、「ごはんをもっと食べようプロジェクト」を立ち上げた。そこで、最近、海外でも注目を浴びている「お弁当」で、お米のよさをアピールすることを考えた。

本時は、子どもが、魅力ある弁当の条件として立てた4つのうちの「栄養バランス」について、データを基に検討する場面であった。グループで考えたお弁当の品目や食材を、エネルギー表を基にして、友達と意見を交わしたり、栄養教諭のアドバイスを聞いたりしながら、バランスのよいものに組み替えていた。「SATシステム」という測定機器を導入し、科学的・客観的に判定される状況をつくったことで、子どもは追究意欲を高め、主体的・協働的に学びを繰り返していった。

協議会では、授業者がねらった「収集分析」「計画実行」「協働」、そして、「問題状況の中から課題を再発見し、設定する」などの資質・能力を発揮する子どもの姿が、参観者同士で共有され、単元レベル、本時レベルで評価規準を重点化して活動支援にあたることの大切さが確認された。さらには、単元を貫く「米のよさを伝えたい」という思いを本時でも発揮させるためには、どのような授業展開や手立てをすればよかったかについても検討した。資質・能力だけでなく、対象を通して学ばせたい生き方や考え方に立ち戻りながら、単元を構成し展開することが課題として確認された。

指導者からは、学習評価について、教育課程や学習・指導方法の改善と一貫性をもった形で進めることの大切さをご指導いただいた。また今後も、具体的な子どもの学びの様相を集積しながら、よりよい評価の在り方を考えるという方向性を示していただいた。

## 4 成果と課題

文部科学省発行の『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開』に示される、「育てようとする資質・能力及び態度の例」が、評価計画の策定への大きな手掛かりになること、さらには、子どもを多面的に評価する視点のもち方について、研修を通して体験的に学ぶことができた。

今後は、授業研究やレポート研修などを通して、具体的な実践や子どもの姿を集積しながら、より汎用的で実践的な評価計画策定方法になるよう精度を上げていく。またワークシートや作文といった子どもの成果物以外から、どのように資質能力の発揮を見取るのか、評価方法についての事例を集積していく。